

19.3期は売上高・営業利益ともに過去最高に

～ 20.3期は、米中貿易摩擦の激化により、
日系建機メーカー需要を保守的に見込む ～

ヤマシンフィルタ株式会社
2019年3月期
決算説明資料

東証一部

6240

2019年5月24日

19.3期における事業環境・当社取り組みについて

事業環境

- ・米中貿易摩擦の懸念があるが、中国経済は全体的には堅調
- ・3月の全人代における景気刺激策（財政投資政策（2.15兆元）経済成長率6.5%）によりインフラ投資、更新投資の拡大が想定され、排ガス規制を契機に中国ローカルメーカーへの参入を目指す
- ・世界の建機市場の約5割を占める中国市場において、主要得意先日系メーカーはシェア縮小、新車生産計画を下方修正、補給品在庫持ち高調整を実施



当社取り組み

- ・建機メーカーの補給品在庫の持ち高調整に伴い売上高は第4四半期は停滞
- ・建機用フィルタを主軸に新素材やIoT技術を活かしたラインナップの充実を図った
- ・PAC18目標達成に注力するも生産量減少により削減目標は未達。年間累計の原価削減目標値3.3億円に対し、削減実績2.9億円（年間進捗率88%）

19年3月期業績動向

- ・ **売上高・営業利益ともに過去最高値を更新**
- ・ 売上高は得意先建機メーカーの補給品在庫調整はあったものの、**前年同期比4.9%増収の13,811(百万円)**となった
- ・ 売上総利益はPAC18による原価削減努力により**前年同期比6.7%増益の6,479(百万円)**
- ・ 営業利益は下期以降在庫増加、販管費の上昇等の影響があったものの、上記増収効果、PAC18の効果により、**前年同期比2.8%増益の1,963(百万円)**

I

2019年3月期実績及び2020年3月期通期見通し

P3

II

建機市場を取り巻く環境

P27

III

今後の戦略

P32



I

2019年3月期実績及び 2020年3月期通期見通し

2019年3月期 第4四半期業績（2019年1月~3月）



	2018年3月期 Q4 実績	2019年3月期 Q4 実績	前年同期比 増減	
	金額	金額	金額	%
(単位：百万円)				
売上高	3,542	3,221	△321	△9.1%
営業利益	388	365	△23	△6.0%
営業利益率	11.0%	11.3%	0.3Pt	
経常利益	347	356	9	2.6%
経常利益率	9.8%	11.1%	1.3Pt	
当期純利益	273	273	0	0.0%
純利益率	7.7%	8.5%	0.8Pt	
為替レート AR USD	108.3	110.2	1.9	1.8%
EUR	133.2	125.2	△8.1	△6.0%

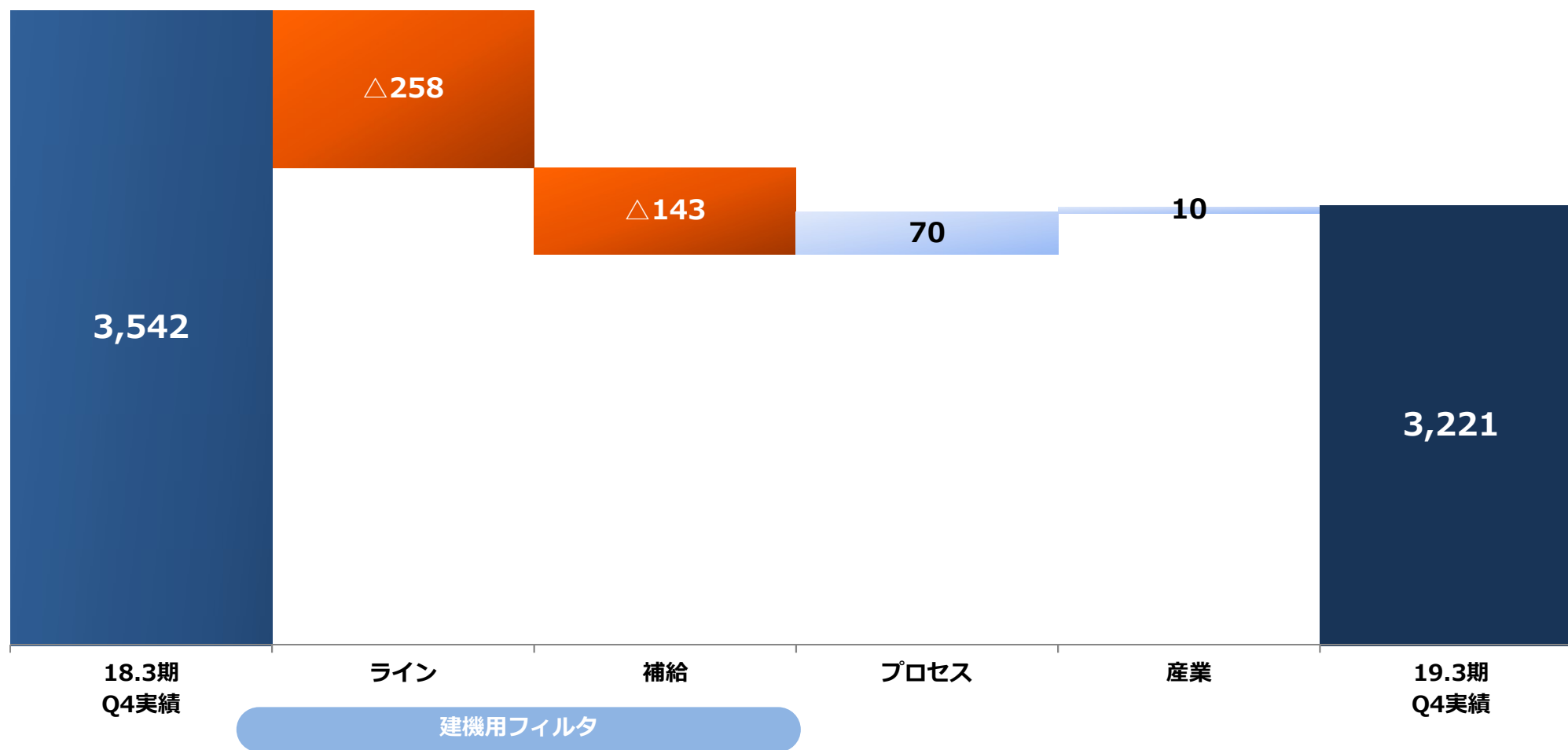
※実績為替レートは期中平均の値です。

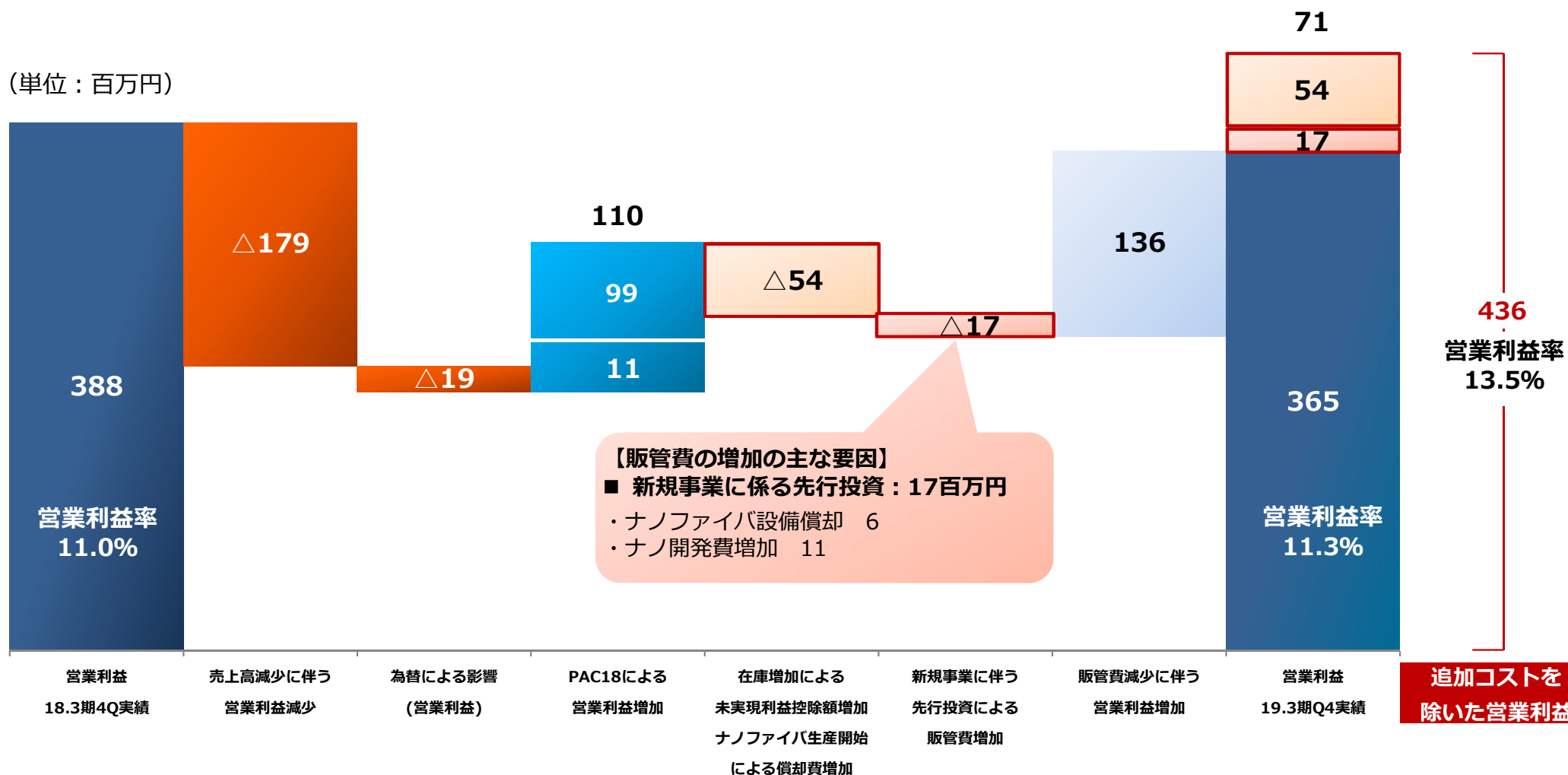
	2018年3月期 Q4 実績	2019年3月期 Q4 実績	前年同期比 増減	
	金額	金額	金額	%
(単位：百万円)				
建機用フィルタ	3,224	2,821	△402	△12.5%
ライン品	1,557	1,298	△258	△16.6%
補給品	1,666	1,523	△143	△8.6%
産業用フィルタ	119	129	10	8.4%
プロセス用フィルタ	199	269	70	35.4%
売上高合計	3,542	3,221	△321	△9.1%

	2018年3月期 Q4 実績		2019年3月期 Q4 実績		前年同期比 増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
(単位：百万円)						
国内	1,621	45.7%	1,518	47.1%	△ 102	△6.3%
北米	583	16.5%	553	17.2%	△ 30	△5.2%
中国	612	17.3%	466	14.5%	△ 146	△23.9%
アジア	392	11.1%	350	10.9%	△ 41	△10.7%
欧州	337	9.5%	331	10.3%	△ 5	△1.7%
その他 (中東他)	△ 4	-0.1%	0	0.0%	4	
売上高合計	3,542	100.0%	3,221	100.0%	△ 321	△9.1%

(注) 当社の請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

(単位：百万円)





※PAC (Promptly Activated Cost reduction) 全社的なコスト削減プロジェクト

2019年3月期業績（2018年4月～2019年3月）



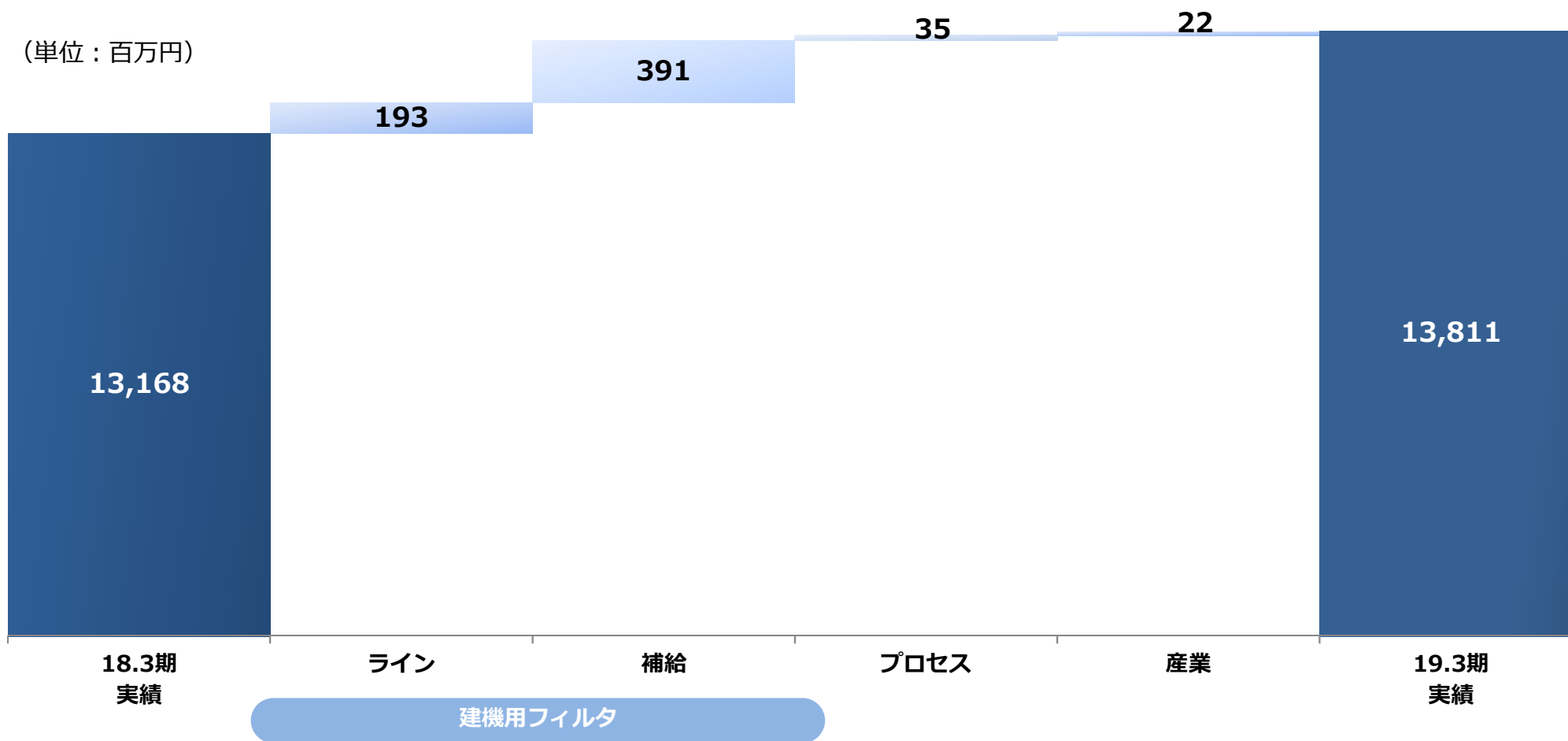
	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	前期比 増減	
	金額	金額	金額	%
(単位：百万円)				
売上高	13,168	13,811	642	4.9%
営業利益	1,910	1,963	52	2.8%
営業利益率	14.5%	14.2%	△0.3Pt	
経常利益	1,824	1,915	91	5.0%
経常利益率	13.9%	13.9%	0.0Pt	
当期純利益	1,249	1,413	164	13.1%
純利益率	9.5%	10.2%	0.7Pt	
為替レート AR USD	110.9	110.9	0.0	0.1%
EUR	129.7	128.4	△1.3	△1.0%

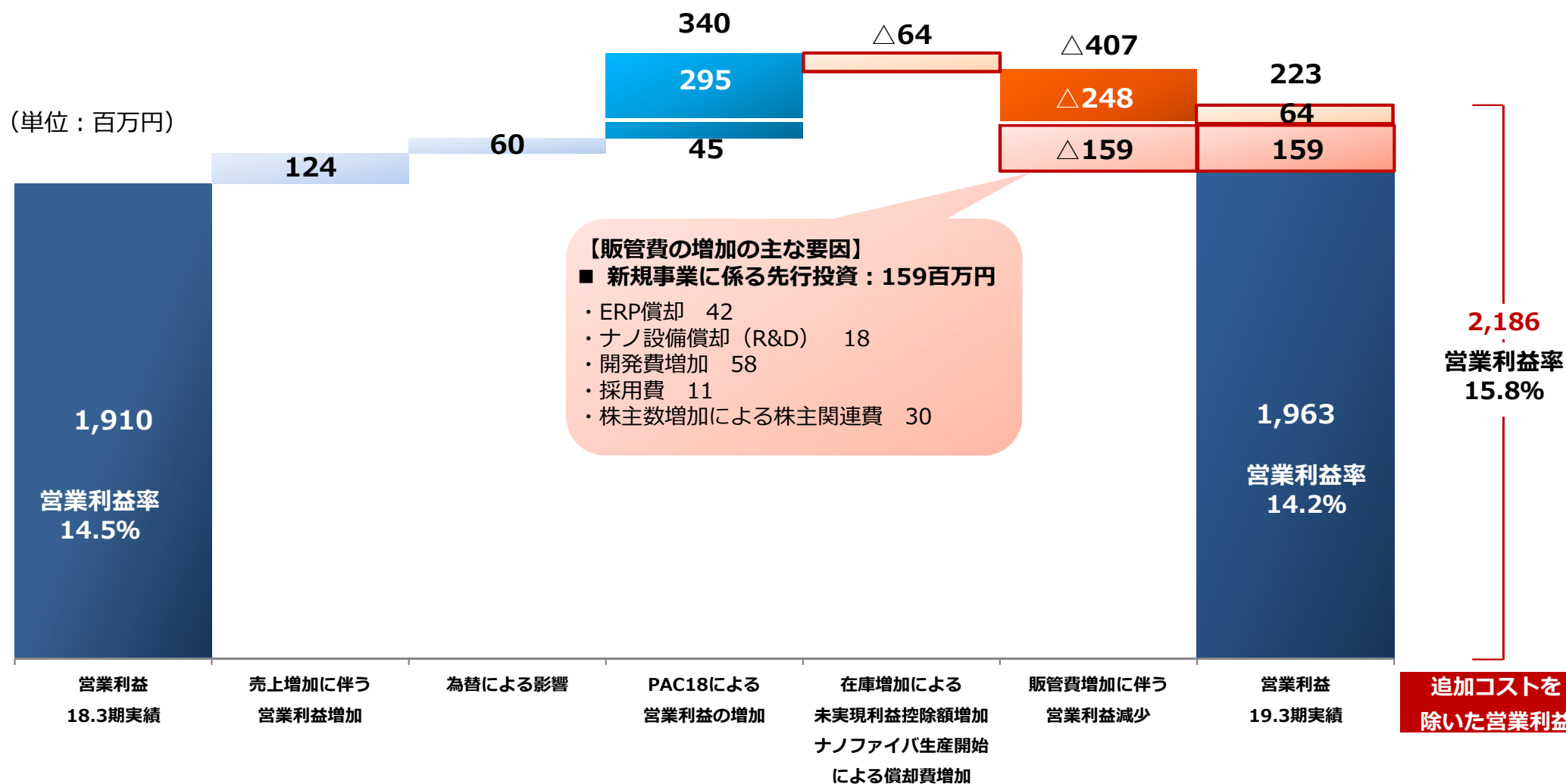
※実績為替レートは期中平均の値です。

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	前期比 増減	
	金額	金額	金額	%
(単位：百万円)				
建機用フィルタ	11,768	12,353	585	5.0%
ライン品	5,342	5,535	193	3.6%
補給品	6,425	6,817	391	6.1%
産業用フィルタ	526	548	22	4.2%
プロセス用フィルタ	873	909	35	4.1%
売上高合計	13,168	13,811	642	4.9%

	2018年3月期 実績		2019年3月期 実績		前期比 増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
国内	6,443	48.9%	6,541	47.5%	97	1.5%
北米	2,201	16.7%	2,253	16.3%	52	2.4%
中国	1,753	13.3%	1,813	13.1%	60	3.5%
アジア	1,522	11.6%	1,741	12.6%	219	14.4%
欧州	1,204	9.2%	1,454	10.5%	249	20.7%
その他 (中東他)	42	0.3%	6	0.0%	△35	△85.4%
売上高合計	13,168	100.0%	13,811	100.0%	642	4.9%

(注) 当社の請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます



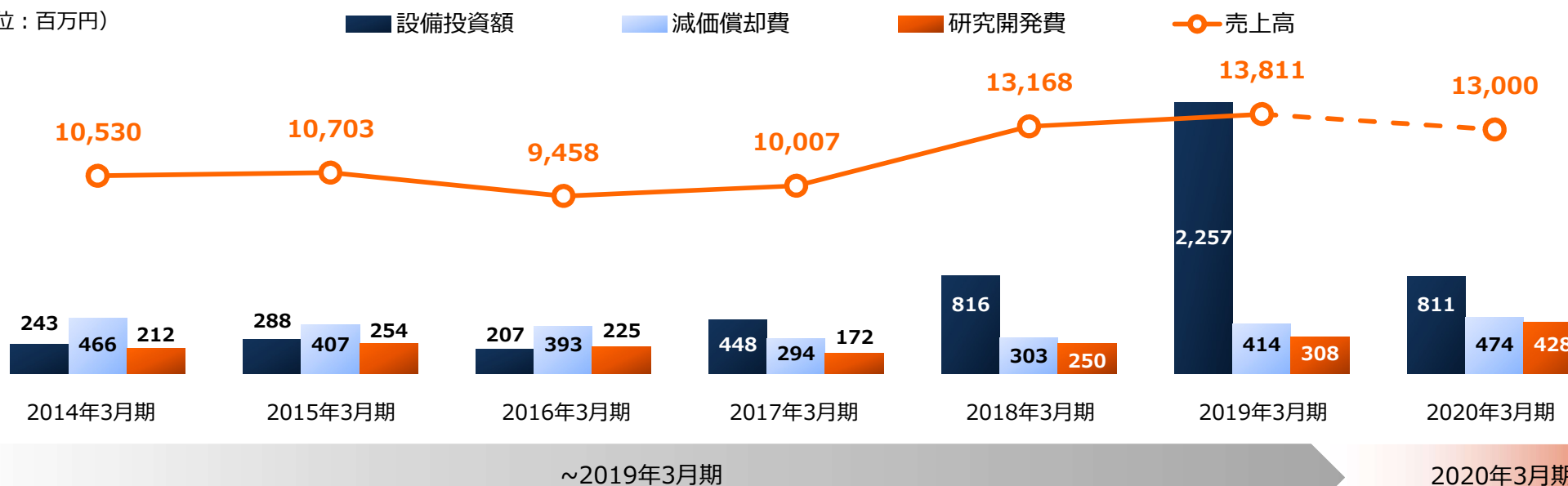


※PAC (Promptly Activated Cost reduction) 全社的なコスト削減プロジェクト

(単位：百万円)	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	見通し
売上高	10,530	10,703	9,458	10,007	13,168	13,811	13,000
設備投資額	243	288	207	448	816	2,257	811
構成比%)	2.3%	2.7%	2.2%	4.5%	6.2%	16.3%	6.2%
減価償却費	466	407	393	294	303	414	474
構成比%)	4.4%	3.8%	4.2%	2.9%	2.3%	3.0%	3.6%
研究開発費	212	254	225	172	250	308	428
構成比%)	2.0%	2.4%	2.4%	1.7%	1.9%	2.2%	3.3%

売上高及び設備投資・減価償却費の年度推移

(単位：百万円)



管理部門にとどまらず、現場にまで
企業価値向上の目標数値を落とし込む

MAVY'Sとは (ROIC - WACC)

Maximizing
Added
Value of
Yamashin Filter
Spread

投下資本の利潤最大化を目指し、
各責任部署が (KPI) を設定し
業務に取り組む (KSF) ための
最重要指標 (KGI)

MAVY's
スプレッド拡大により
ステークホルダーの期待に応える

各指標に対して、担当部署を
割り振り、各KPIを設定して
目標達成に向けた業務運営を
全社にて行う

Key Goal Indicator (KGI)	Key Performance Indicator (KPI)	Key Success Factor (KSF)	責任部署	経営方針	19.3期部門目標 (action plan)		
<p>MAVY's</p> <p>Prv: 4.1% Cur: 0.0%</p> <p>ROIC</p> <p>Prv: 7.0% Cur: 7.8%</p> <p>WACC</p> <p>Prv: 2.9% Cur: 7.8%</p> <p>ROE</p> <p>Prv: 10.6% Cur: 8.1% ※Prv : 7.6%</p> <p>ROA</p> <p>Prv: 8.1% Cur: 6.8% ※Prv : 6.2%</p>	<p>売上高営業利益率</p> <p>Prv: 14.5% Cur: 14.2%</p> <p>売上高営業利益率</p> <p>Prv: 46.1% Cur: 46.9%</p> <p>販管費率</p> <p>Prv: 31.6% Cur: 32.7%</p> <p>投下資本回転率</p> <p>Prv: 0.8 Cur: 0.8</p> <p>固定資産回転率</p> <p>Prv: 3.7 Cur: 3.0</p>	売上高伸長率	新製品開発 純正率向上	営業・開発	事業ポートフォリオ拡大 既存事業の深耕	<ul style="list-style-type: none"> ・新ろ材フィルタ販売 ・セミナー活動実施によるシェアアップ ・新規市場の開拓 	
		Prv: 31.6% Cur: 4.9%	売上原価率	購買力強化 歩留り改善	生産・購買	収益性の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・PAC18、サプライヤ再編 ・SAP導入、原価低減
		Prv: 2.3% Cur: 2.8%	減価償却費率	投資計画	経営企画 財務経理	事業ポートフォリオ拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・中期経営企画の策定 ・投資回収効果
		Prv: 1.9% Cur: 2.2%	研究開発費率	テーマの絞り込み 優先順位	開発	事業ポートフォリオ拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・新素材の開発 ・IoTの取り組み ・その他技術開発
		Prv: 12.8% Cur: 13.5%	人件費率	最適な人員構成	人事・総務	人事制度・システムの 確立	<ul style="list-style-type: none"> ・タレントマネジメント制度策定・運用
		Prv: 4.5 Cur: 4.2	売上債権回転率	債権管理	営業 財務経理	ガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> ・債権ポジション管理
		Prv: 8.1 Cur: 6.6	棚卸資産回転率	適正在庫の設定	生産 営業	ガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングキャピタルのモニタリング ・適正在庫水準の管理
		Prv: 5.4 Cur: 5.2	仕入債務回転率	債務管理	購買 生産	ガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングキャピタルの改善
		Prv: 9.0 Cur: 5.3	有形固定資産回転率	設備計画 (R&D・生産)	経営企画 総務・生産・開発	事業ポートフォリオ拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・投資回収効果最適化
		Prv: 37.3 Cur: 36.4	無形固定資産回転率	投資計画	経営企画 財務経理	事業ポートフォリオ拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・投資回収効果最適化 ・SAP活用

※18年3月期期首に増資した場合の想定値

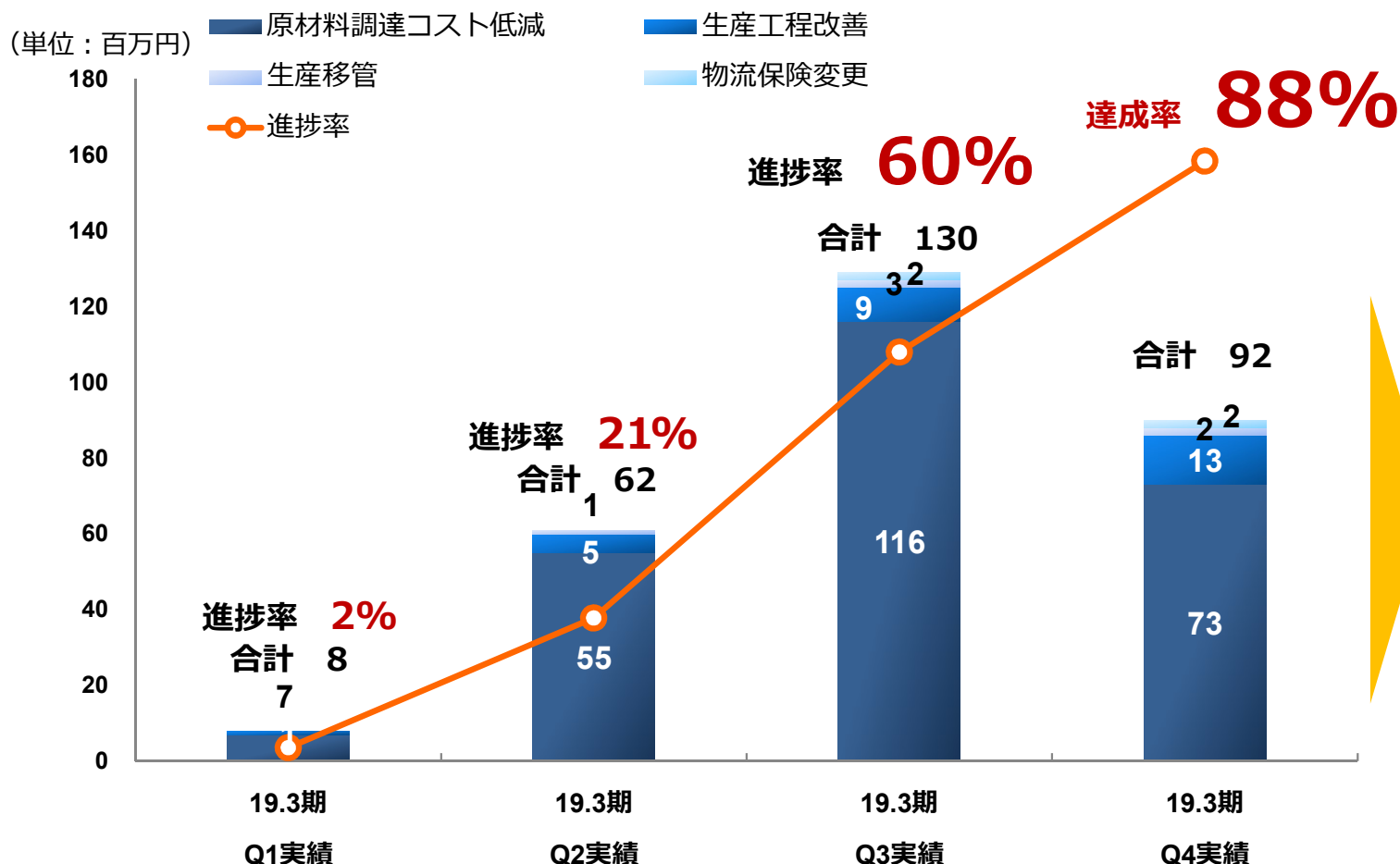
- 生産技術・管理・システムの総合的な改善を実施し、利益体制の強化を図る



背景	科目	アクションプラン	削減目標額 (年間目標)	上期実績	通期実績	達成率 (年間)
強固な経営基盤 利益創出体制 の確立	製造原価	生産の効率化 サプライチェーン 強化等	3.3億円	71,456 (千円)	294,961 (千円)	88%
	販売管理費	営業経費、 管理費の削減	0.5億円	20,029 (千円)	44,792 (千円)	90%

19.3期は原材料調達コスト低減に注力

PAC18	原材料調達コスト低減	主要原材料の購入先変更及びVA提案による購入材料変更、購入単価低減
	生産工程改善	製造技術改善による原材料費低減及び作業工数低減
	生産移管	海外外注生産を実施し生産地最適化
	物流保険変更	サプライチェーン及び調達材料物流保険の変更による諸掛低減



【目標未達の要因】

取組自体は大きな効果を上げたものの、19.3期Q4の売上高減速に伴い、原材料調達コストの削減額も同時に減少。年間目標は未達で着地した

2020年3月期 通期業績予想



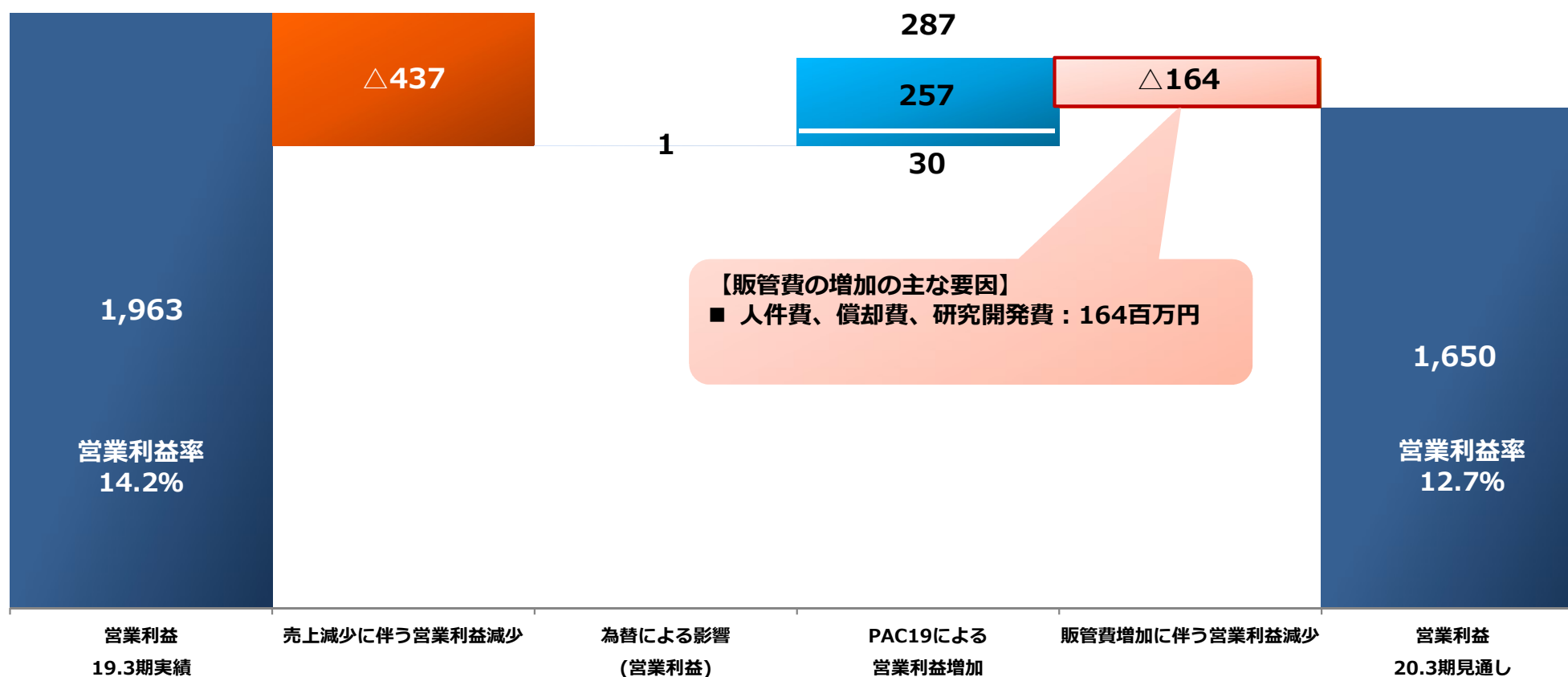
	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 見通し	19年3月期実績 対 20年3月期見通し
	金額	金額	金額	金額
(単位：百万円)				
売上高	13,168	13,811	13,000	△811
売上総利益	6,074	6,479	6,300	△179
売上総利益率	46.1%	46.9%	48.5%	1.6Pt
販売管理費	4,163	4,515	4,650	134
販管比率	31.6%	32.7%	35.8%	3.1Pt
営業利益	1,910	1,963	1,650	△313
営業利益率	14.5%	14.2%	12.7%	△1.5Pt
経常利益	1,824	1,915	1,600	△315
経常利益率	13.9%	13.9%	12.3%	△1.6Pt
当期純利益	1,249	1,413	1,100	△313
純利益率	9.5%	10.2%	8.5%	△1.7Pt
為替レート AR USD	110.9	110.9	108.0	△2.9
EUR	129.7	128.4	130.0	1.6

	2019年3月期 実績		2020年3月期 見通し		19年3月期実績 対 20年3月期見通し	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
建機用フィルタ	12,353	89.4%	11,543	88.8%	△809	△6.6%
ライン品	5,535	40.1%	5,062	38.9%	△473	△8.6%
補給品	6,817	49.3%	6,481	49.9%	△335	△4.9%
産業用フィルタ	548	4.0%	572	4.4%	24	4.4%
プロセス用フィルタ	909	6.6%	883	6.8%	△25	△2.8%
売上高合計	13,811	100.0%	13,000	100.0%	△811	△5.9%

	2019年3月期 実績		2020年3月期 見通し		19年3月期実績 対 20年3月期見通し	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
国内	6,541	47.5%	6,058	46.6%	△482	△7.4%
北米	2,253	16.3%	2,440	18.8%	186	8.3%
中国	1,813	13.1%	1,480	11.4%	△333	△18.4%
アジア	1,741	12.6%	1,694	13.0%	△46	△2.7%
欧州	1,454	10.5%	1,298	10.0%	△155	△10.7%
その他（中東他）	6	0.0%	27	0.2%	20	341.7%
売上高合計	13,811	100.0%	13,000	100.0%	△811	△5.9%

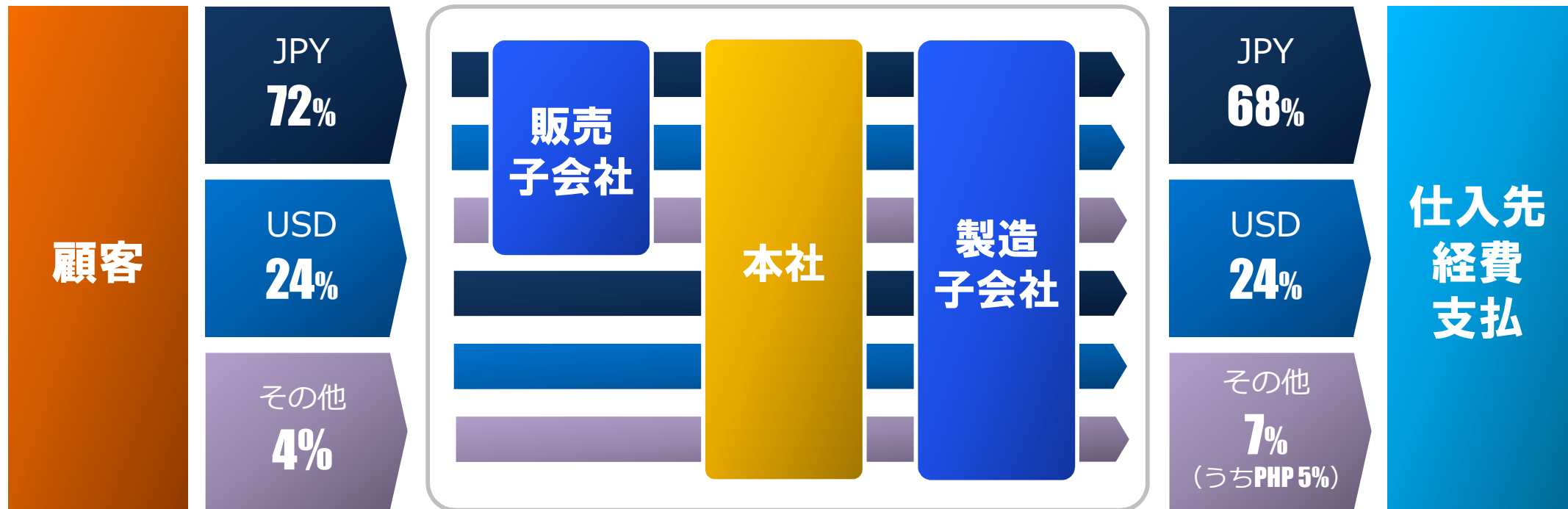
（注）当社の請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

(単位：百万円)



※PAC (Promptly Activated Cost reduction) 全社的なコスト削減プロジェクト

- 為替は完全マリーが継続している。為替感応度0.1%を実現



取引通貨の7割はJPY

USDは為替マリーを実現

- 為替が1円円高になった場合の営業利益影響額は約1.0百万円増益

中間配当2.5円、期末配当3.5円の年間6.0円に増配

	17年3月期	18年3月期	19年3期	20年3月期 予想
1株当たり 配当金	2.4円※1	3.6円※1	6.0円	6.0円
DOE	2.3%	1.9%	2.4%	2.3%
総還元性向※2	25.6%	21.6%	31.9%	42.9%

注) 2017年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております

※1 2017年3月期、2018年3月期の配当額については、参考値として上記株式分割後の金額を記載しております

※2 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得 + 株主優待) ÷ 当期純利益



II

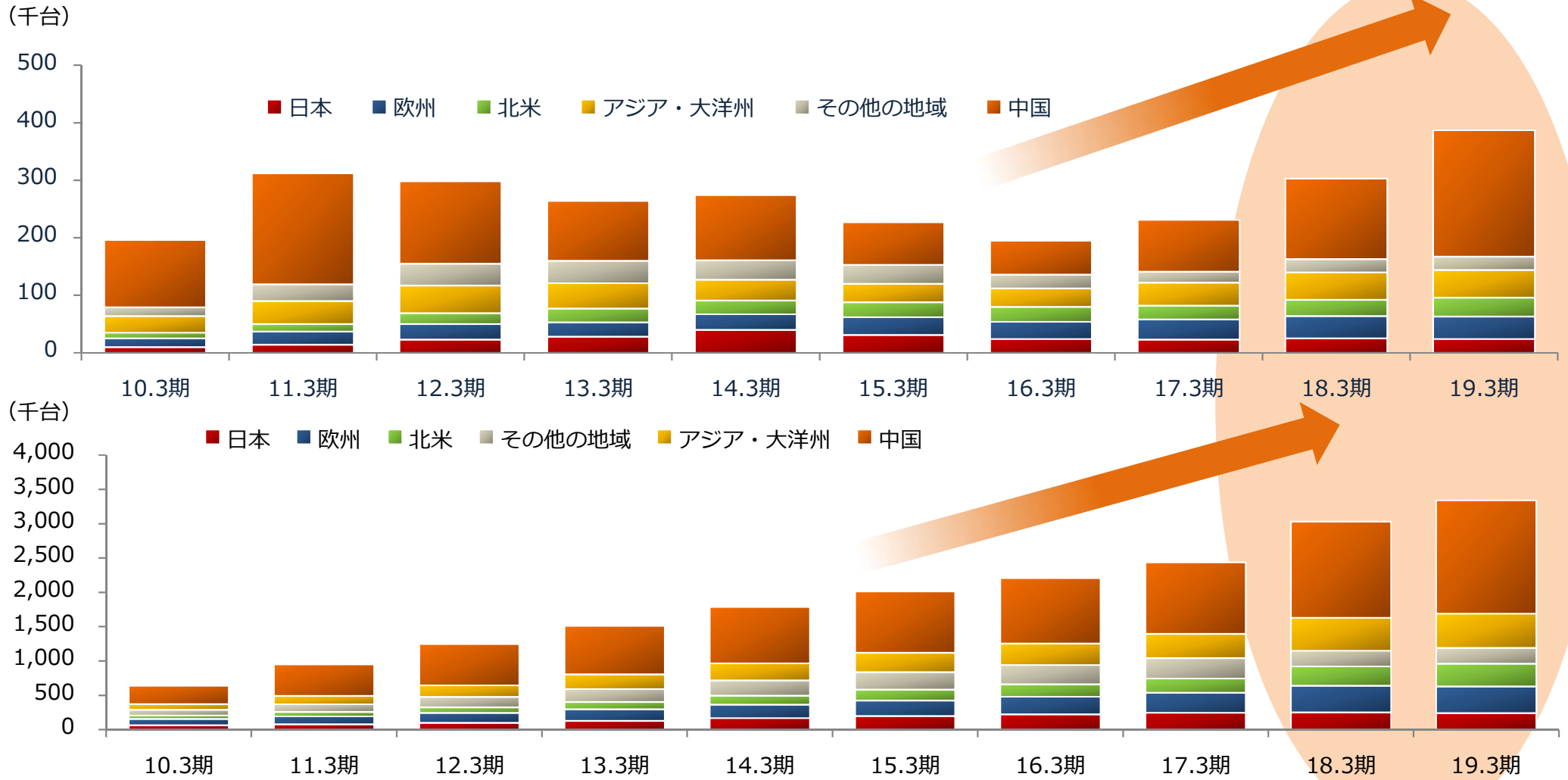
“建機市場を取り巻く環境”

【総括】

- 米中貿易摩擦の懸念があるものの、中国は公共投資を対策として実施。中国経済は全体的には堅調に推移
- 世界の建機市場の約5割を占める中国市場において、主要得意先日系メーカーはシェア縮小、新車生産計画を下方修正、補給品在庫持ち高調整を実施

	過去	現状	今後の見通し
中国	不動産投資鈍化により 大幅な減産	旺盛な需要が継続	インフラ整備（2.15兆元）の投資拡大 排ガス規制契機に新規顧客獲得を目指す
東南 アジア	鉱山機械投資が低迷するも、 インフラ投資は堅調	インドネシアを中心に 需要は全体で増加	一部地域で若干の需要減少を見込む
北米	インフラ投資により 需要回復	エネルギー開発・インフラ投資中心に 需要は前年比増加	需要は堅調に推移すると見込む
日本	堅調な国内インフラ投資により 需要増加	設備投資・公共投資持ち直し 需要は前年並み	需要は前年比並みと見込む
欧州	軟調に推移	EU離脱問題先行き不透明も 需要は堅調に推移	需要は堅調に推移すると見込む

中国市場は、依然として拡大が見込まれる



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

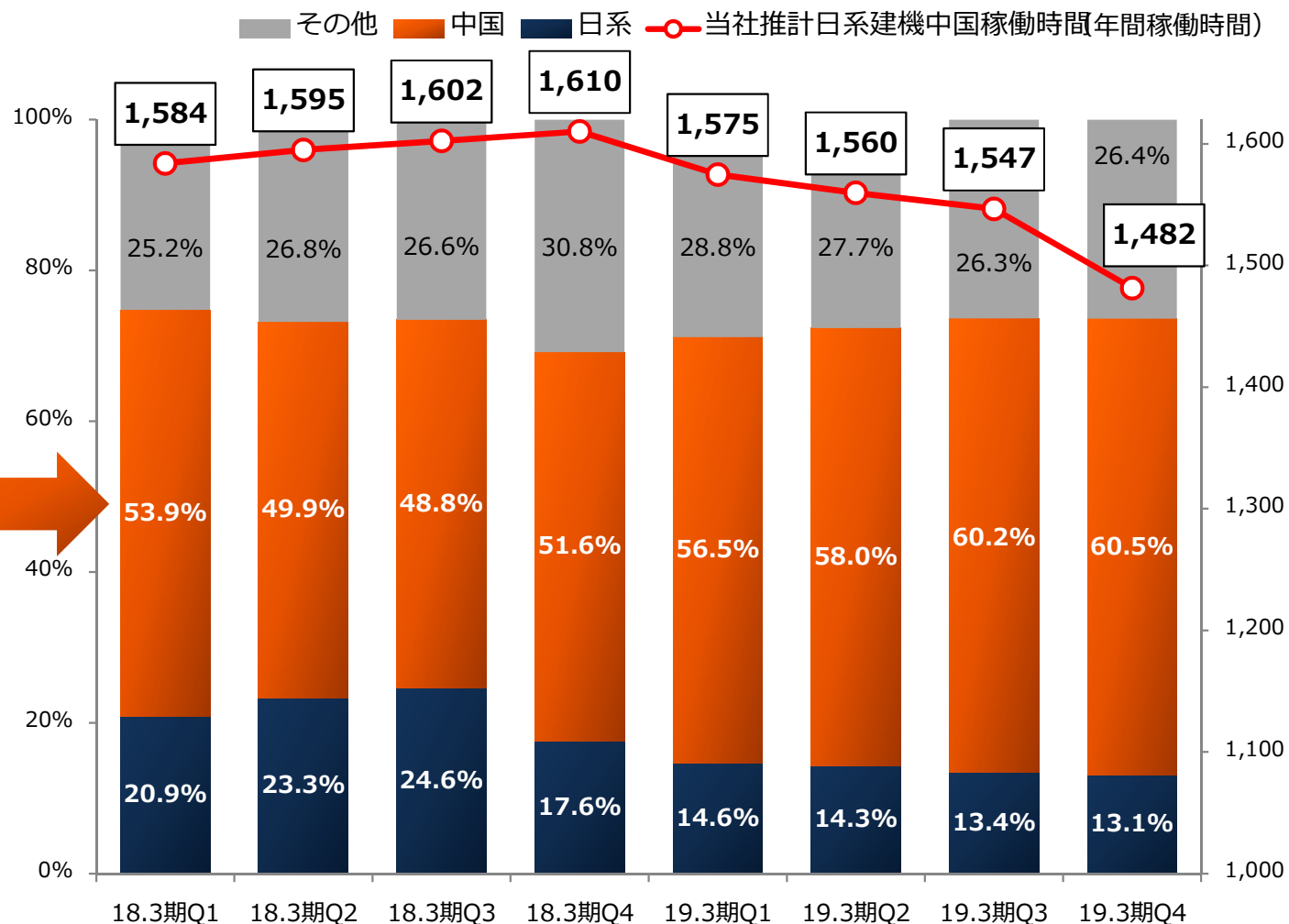
日系メーカーのシェアが下がり、中国ローカルメーカーのシェアがUP

中国市場 販売シェア推移


中国建機市場における、主要建機メーカーシェア

中国ローカルメーカー

- A社
- B社
- C社
- D社
- E社
- F社
- G社
- H社
- その他



		主な取り組み	進捗状況
建機 フィルタ	ライン品	<ul style="list-style-type: none"> 故障予知、IoT・ICT技術の提案 新素材を使ったリターンフィルタの提案 中国建機メーカーへの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 大手メーカー向けにSWIFTROCK・ライフセンサ搭載提案中。実機試験継続中 新素材を使ったリターンフィルタ量産供給開始 Tier4規制対応新機種向けに、ハイブリッドフィルタの採用が開始
	補給品	<ul style="list-style-type: none"> セミナー展開によって非純正品からのシェア向上 	<ul style="list-style-type: none"> 中国建機メーカーの補給品も当社製品を供給開始予定
	産業・プロセス フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> 製品ラインナップの拡充・強化 	<ul style="list-style-type: none"> SWIFTROCKの搭載提案等 新素材を活用した製品の開発・提案中
ナノ フィルタ	アパレル	<ul style="list-style-type: none"> 複数大手アパレルメーカーに対し当社技術による素材を提案 	<ul style="list-style-type: none"> 大手アパレルメーカー数社への試作品提供開始 主要紳士服メーカーへの新素材量産供給開始
	エア フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> 次世代エアフィルタの開発 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年3月期中に新素材エアフィルタの量産供給に向け、開発を進展中 大手白物家電メーカーに対し当社新素材開発提案進展
	農業 資材等	<ul style="list-style-type: none"> アグリベンチャー企業等への協業模索 	<ul style="list-style-type: none"> AI等を活用した次世代農業ベンチャー企業への当社新素材保温シートの標準化進展 自動車吸音材の量産供給進展
事業領域 拡大の施策		<ul style="list-style-type: none"> 新規事業領域拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の事業領域拡大へ向けエアフィルタ、不織布の事業領域、またナノ技術を持つ企業へアプローチ



III 今後の戦略について

建機市場は今後3~5年間は堅調推移 100億円の資金を元手に目標達成に向け積極的に挑戦

事業ポートフォリオの拡大

建機向け油圧フィルタに依存しない
次の成長の柱を育てていく

筋肉質な企業体質の構築

Multipleな生産体制構築
グローバル・サプライチェーン再構築

【3本の柱】

建機フィルタ ✕ プロセス・産業フィルタ ✕ 新素材の展開

PAC18によるコスト低減
R&D拠点向けの大型投資計画
主要マーケットでの生産拠点開設投資

研究開発センターの新設

30億円

新素材の量産と
既存製品の生産性向上

30億円

M&Aを含む資本/業務提携

40億円

建機用フィルタ

2019年1月より新素材を使ったフィルタの量産供給を開始



ハイブリッドフィルタ

ガラス繊維×ナノファイバー

従来のものより、フィルタのライフが3倍になり、交換回数が減る結果、廃棄物を削減。建機寿命延長を実現

**環境への負荷の
軽減に寄与**

各建機メーカーモデルチェンジ時の採用に向け、提案中



さらに「**新素材×IoT×エアレーション対策システム**」で付加価値をアップ、マーケットシェアアップを狙う

稼働時間3倍

新素材

YAMASHIN
Nano Filter



IoTによる
「故障予知」を実現

清浄度センサ

- ✓ 油・水の清浄度を測定
- ✓ 低コスト
- ✓ コンパクト設計

SWIFTROCK™

ライフセンサ

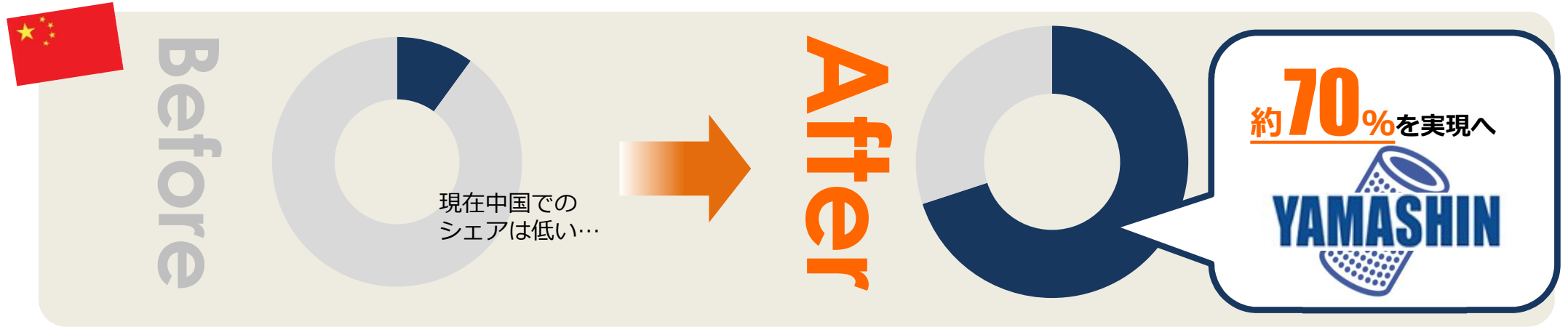
どのくらいフィルタに
ゴミが詰まっているか
段階的な
モニタリングを行う



エアレーション
対策システム


スマートタンク

- ・建機油圧回路内の気発生を抑制
- ・顧客と共同で実機テストを実施中



**ディーゼルエンジン
排出ガス規制
「Tier4」**

- 2020年12月1日
規制開始
- 各社新型モデルを
早急に開発対応中

 **IoT、エアレーション
対策システム**

これまでのコスト重視から品質重視へ
高品質の製品を中国マーケットにも投入

モデルチェンジのタイミングを逃さず、
中国ローカルでもトップシェア獲得へ

- 生産拠点の見直し・再編によりMultiple な生産体制の構築を実施、安全で最適なサプライチェーンを構築



目的・GOAL

クロスソーシング
生産体制の構築



顧客ニーズに
柔軟に 대응



購買力強化



事業継続計画
(BCP)



研究開発センターの新設

30億円

2019年2月14日

**YRP野比（神奈川県横須賀市）に
土地を取得。2021年2月に竣工予定**

- R&D一貫体制の確立を実現
- 実機試験場を整備し、顧客要求を迅速に反映



(上記は建設後イメージです)

エアフィルタ

繊維径のコントロールにより、 高品質なる過精度フィルタ量産化の実現が可能となる

① 大手A社様



【要望】

- ・ガラス繊維で対応しているものの置換

【現状】

- ・仕様値達成に向けサンプル作製中
- ・製品化へ向けた試作品の性能アップ
- ・安定生産に向けた設備の改善
- ・来期量産化に向けた準備

② 大手B社様



【要望】

- ・ガラス繊維で対応しているものの置換

【現状】

- ・更なるファイバー間の緻密さ・極細化必要
- ・線維化時の雰囲気温度の高温化が必要
- ・別途、ロングライフ化エアフィルタとしてエレクトレット加工した素材を評価予定

その他

繊維径のコントロールにより、 高品質なる過精度フィルタ量産化の実現が可能となる

① アパレル用途



【要望】

- ・薄くて軽い素材開発(断熱材・ダウン代替)
- ・現行品+@の特性を付加する

【現状】

- ・ナノファイバーの断熱効果データ取得
- ・試作品の作製と実験データ取得

② 自動車内装用途



【要望】

- ・現行品の性能(低周波)以上の吸音材開発

【現状】

- ・吸音効果のデータ取得と傾向の把握
- ・要求仕様を充足するサンプル作製
- ・製品化の具体的な加工、管理方法の検討

③ 生活用品用途



【要望】

- ・現行品よりも高い保温性・保冷性

【現状】

- ・ナノファイバーの断熱効果データ取得
- ・試作品の作製と実験データ取得

農業用資材

多層断熱資材にナノファイバーを使用→断熱性効果向上
化石燃料の使用量減少、CO2削減効果が見込まれ、地球温暖化問題解決に貢献

ビニールハウス内
断熱資材

【現状】

- ・顧客仕様に合わせたサンプル提供済み
- ・相互にサンプルが仕様に合っているかを確認中
- ・実際のビニールハウスでのテストに向けて調整中



世界トップシェアを誇る建機用フィルタ事業

建機用フィルタ事業は、インフラ整備の投資拡大及びアフターマーケットの強さを背景に持続的な成長が見込まれる

売上及び利益面で大きな貢献が予想される新規事業

多様な用途への活用が期待されるYAMASHIN Nano Filterが成長ドライバー



参考資料

① 当社基本情報

当社グループの概要

当社グループは、創業以来、一貫してフィルタの専門メーカーとして実績を重ねてきました
 当社グループは、フィルタのキーパーツである「ろ材」の主な材料であるガラス繊維や不織布及びフィルタの構成部品に使用される
 金属加工品や樹脂加工品等の仕入を行い、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを製造しております
 当社グループは、各フィルタの「ろ材」の開発及び製品設計から製造をグループ内で一貫して行い、
 建設機械、産業機械等の業界向けに販売を行っております

建機用フィルタ分野

建機用フィルタとは、建機の駆動に不可欠である油圧回路の作動油、燃料のディーゼル・オイル、エンジン駆動に必要な潤滑油のろ過に用いられるフィルタのことで、あらゆる建機に搭載されています。



フィルタエレメント
(建機用)

産業用フィルタ分野

産業用フィルタとは、様々な業界に応用されている油圧ユニットの作動油や潤滑油のろ過に用いられるフィルタのことであり、工作機械、冷凍用圧縮機、農業機械、船舶、鉄道車両、航空機やヘリコプター等の産業機械に用いられています。



ラインフィルタ
(船舶用)

プロセス用フィルタ分野

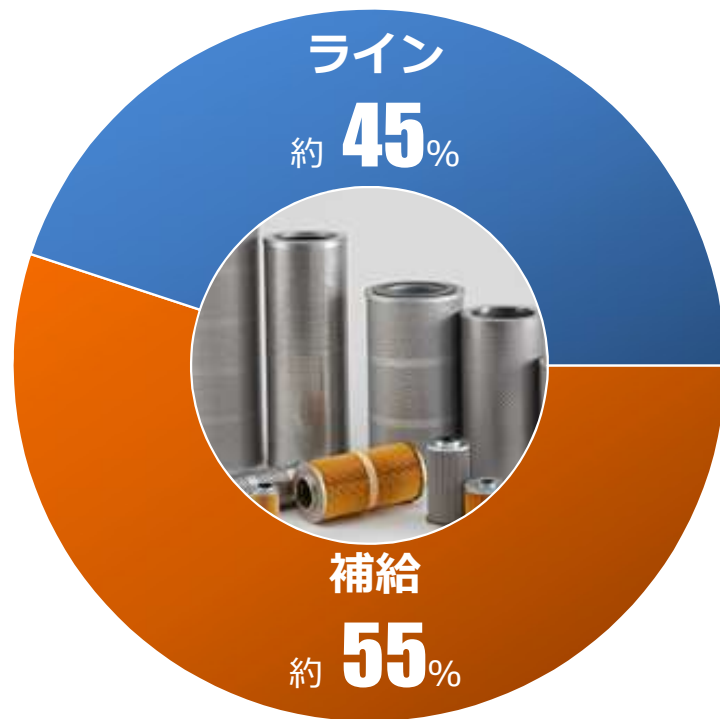
プロセス用フィルタとは、顧客製品の製造工程で行われるろ過・分離に必要なフィルタのことであり、電子部品、精密部品、液晶ディスプレイや食品等の業界に用いられています。



不織布フィルタ
(電子部品用)

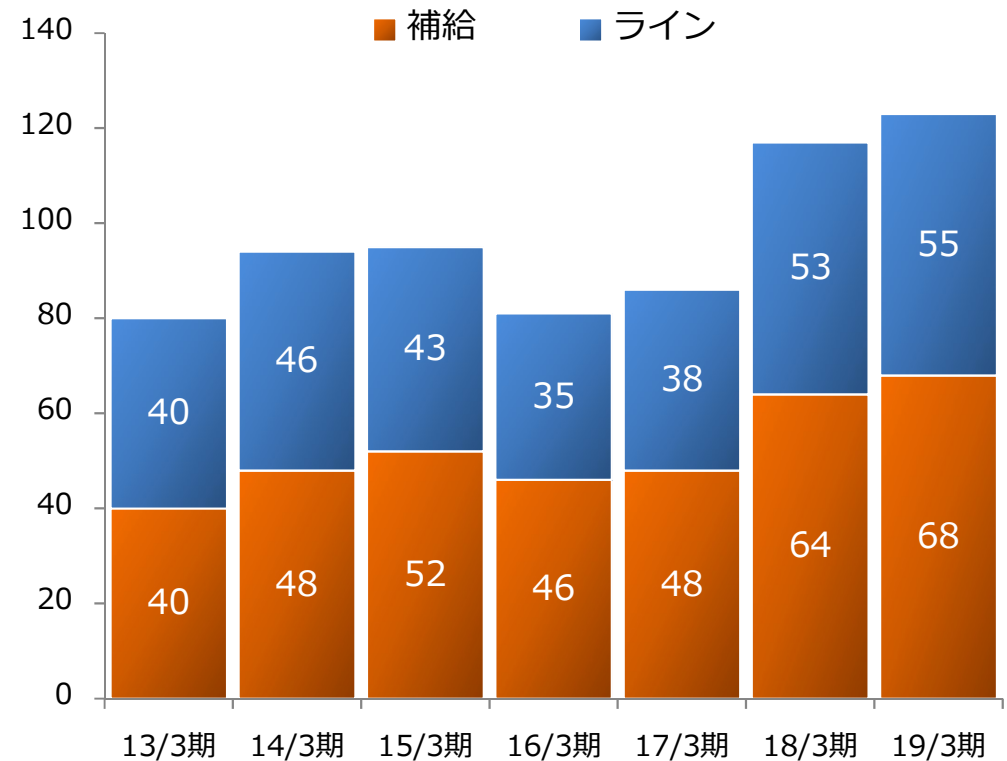
補給はストックモデル 建機の稼働台数の蓄積により、安定した需要拡大が見込める

19.3期 建機用フィルタ 売上構成



補給・ラインの売上高推移

(単位：億円)



建設機械の稼働に不可欠なフィルタ 多様多彩なラインナップを提供

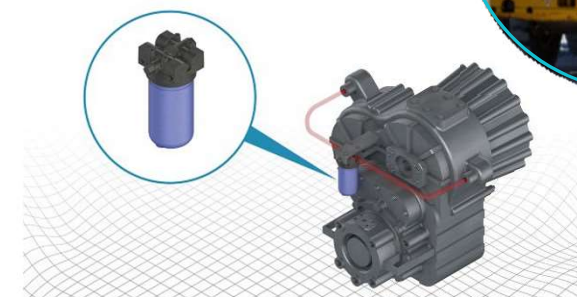
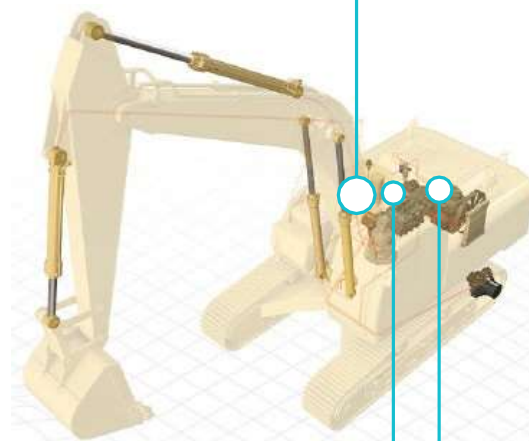
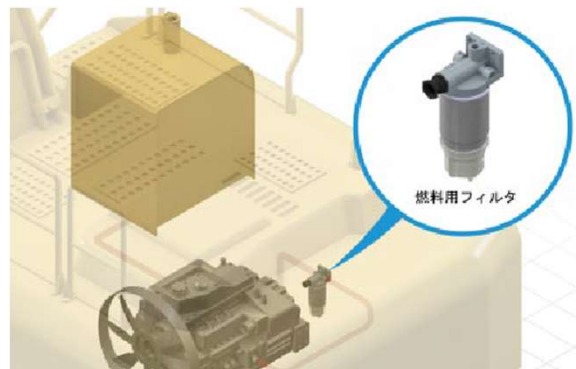


油圧用

シリンダー等の油圧機器の保護を目的に、建機に複数搭載されるフィルタです。建機の故障の原因は、約7割がオイル内のダストによる機器破損といわれています。当社では、創業以来のノウハウで最適なフィルタを提供しています。

燃料用

ディーゼル燃料に混入したダストの除去を目的としたフィルタです。昨今、世界的に進んでいる排ガス規制をきっかけに、燃料に求められる清浄度が高まっています。粗悪燃料が蔓延している新興国では、特に需要増が見込まれています。

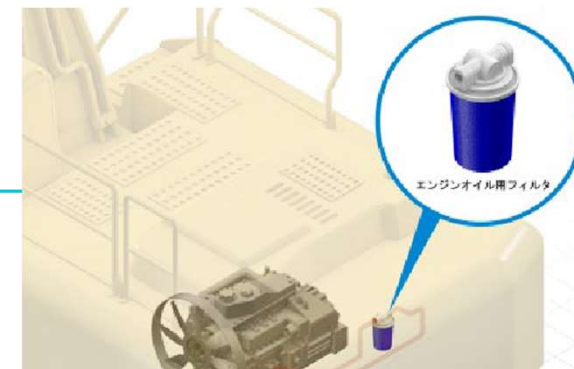


トラクション用

トラクション（変速機）機構を持つ建機に搭載されるフィルタです。トラクションは複数のギアで構成されるため、ギア同士の摩擦で金属粉等のダストが発生します。当社では自社製「る材」によってこのダストを適切にろ過し、機器のダメージを防ぎます。

エンジンオイル用

建機の各種エンジンに搭載されるフィルタです。エンジンの内部では動力を発生させるためにピストン等が高速運動をしています。エンジンオイル用フィルタは、その際に混入する摩耗（金属）粉やスラッジ（堆積物）等を除去し、性能低下や破損リスクを低減します。



セグメント と KPI

- 建機用フィルタは「**ライン品**」と「**補給品**」に分かれる
- ライン品は新車搭載用のフィルタ。重要指標は「**新車需要台数**」
- 補給品は交換部品用のフィルタ。重要指標は「**稼働台数**」×「**稼働時間**」

販売形態 地域別動向 コスト削減

- **販売形態**
建機用フィルタの売上は、建機メーカーへの直接販売。エンドユーザーへの直販は基本的に行っていない
- **地域別動向**
地域別売上高は参考値。当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と異なる
- **PAC18 (Promptly Activated Cost reduction 2018)**
全社的なコスト削減プロジェクト

用語	計算式
MAVY's	ROIC - WACC
ROIC	NOPAT ÷ 投下資本
投下資本利益率	(経常利益+支払利息) ÷ 投下資本
運転資本回転率	売上高 ÷ (売上債権+棚卸資産-仕入債務)
固定資産回転率	売上高 ÷ 固定資産
売上債権回転率	売上高 ÷ 売上債権
棚卸資産回転率	売上高 ÷ 棚卸資産
仕入債務回転率	売上原価 ÷ 仕入債務
有形固定資産回転率	売上高 ÷ 有形固定資産
無形固定資産回転率	売上高 ÷ 無形固定資産

※貸借対照表項目について期首期末平均で計算しております。

新
素
材
開
発
前

STRENGTH (強み)

- 建機用フィルタ市場における圧倒的なシェア
- 高い研究開発力
- PAC、MAVY'sによる強固な経営基盤

WEAKNESS (弱み)

- 展開事業領域が限定されている
- 売上高の9割が建機用フィルタに依存
- 生産拠点の一極集中

OPPORTUNITIES (機会)

- 中国市場の拡大、更なるシェア獲得
- プロセス/産業フィルタの市場プレゼンス拡大

THREAT (脅威)

- 建機用フィルタの模倣品増加によるシェア低下
- 建設機械市場の変調
- プロセス/産業フィルタの成長未達

育成事業



基盤事業 (成長)



構造改革事業

基盤事業 (安定)

新素材開発後

STRENGTH (強み)

- 建機用フィルタ市場における圧倒的なシェア
- **新素材導入による更なるシェア拡大**
- 高い研究開発力
- PAC、MAVY'sによる強固な経営基盤

OPPORTUNITIES (機会)

- 中国市場の拡大、更なるシェア獲得
- プロセス/産業フィルタの市場プレゼンス拡大
- **「総合フィルタメーカー」への飛躍によるビジネス領域の拡大**

WEAKNESS (弱み)

- 売上高の9割が建機用フィルタに依存

THREAT (脅威)

- 建機用フィルタの模倣品増加によるシェア低下
- 中国市場の変調
- プロセス/産業フィルタの成長未達
- **新素材商品展開の遅れ**

総合フィルタメーカーを実現し脱却予定

新素材による模倣品排除

育成事業

プロセス/産業
フィルタ

新素材事業


構造改革事業

STRATEGY
MATRIX

基盤事業 (成長)

建機用
フィルタ

基盤事業 (安定)

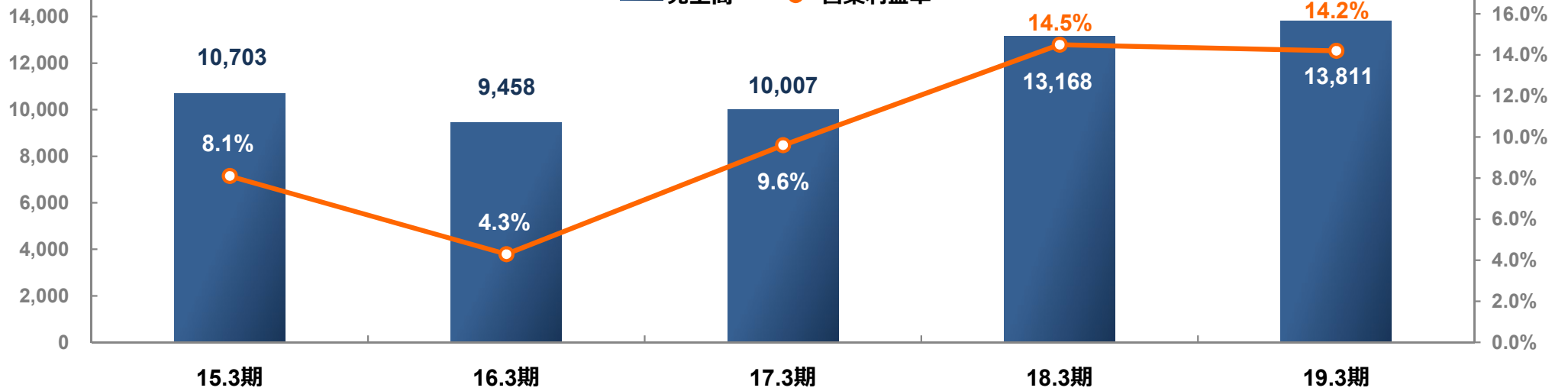


参考資料
②財務ハイライト

売上高・営業利益率推移

(単位：百万円)

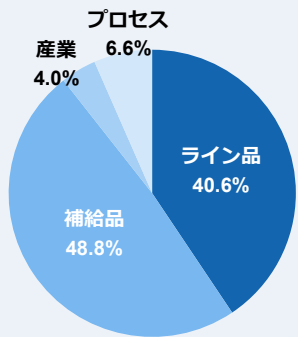
■ 売上高 ○ 営業利益率



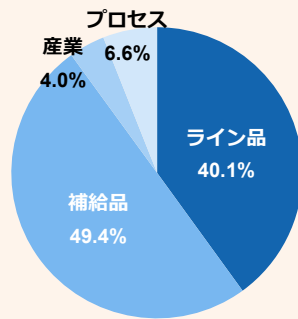
製品別売上高

地域別売上高

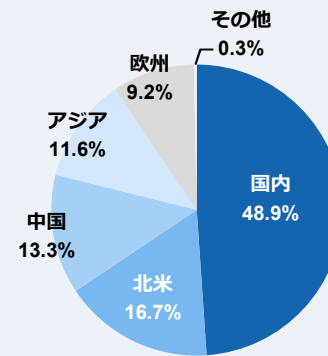
18.3期



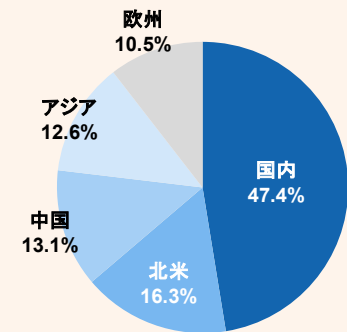
19.3期



18.3期

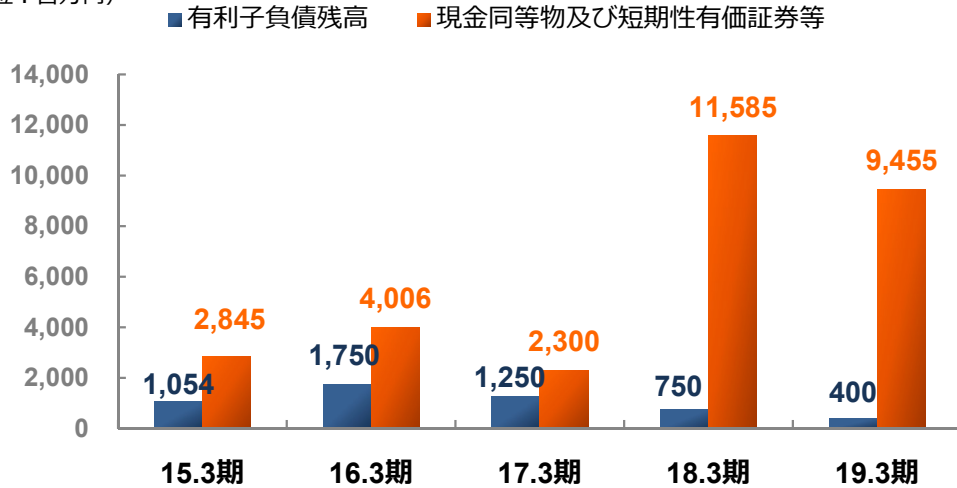


19.3期

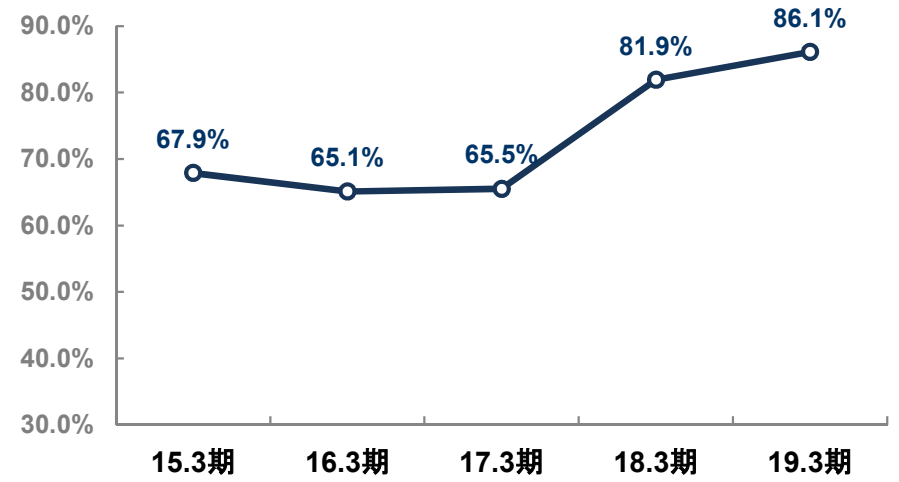


有利子負債・現金同等物及び短期性有価証券等残高

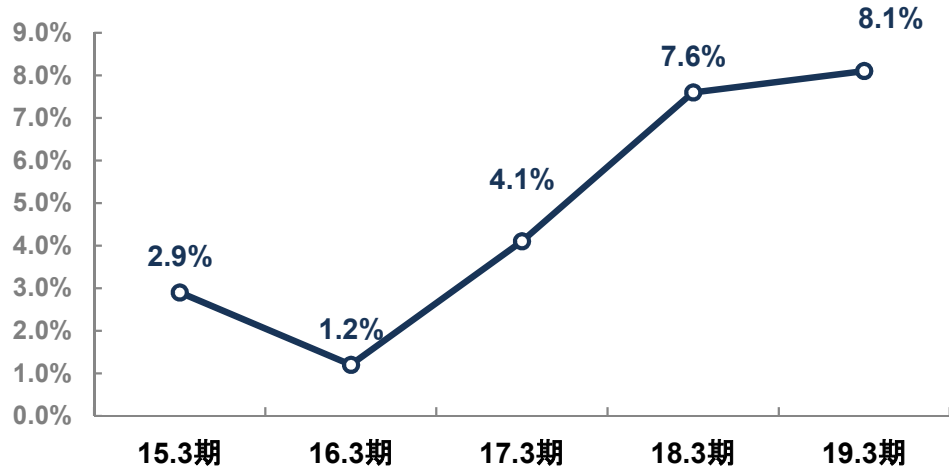
(単位：百万円)



株主資本比率

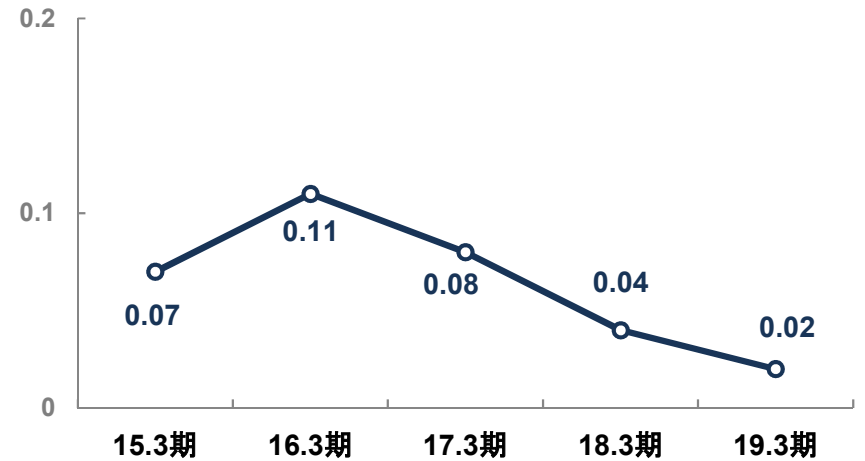


ROE



※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

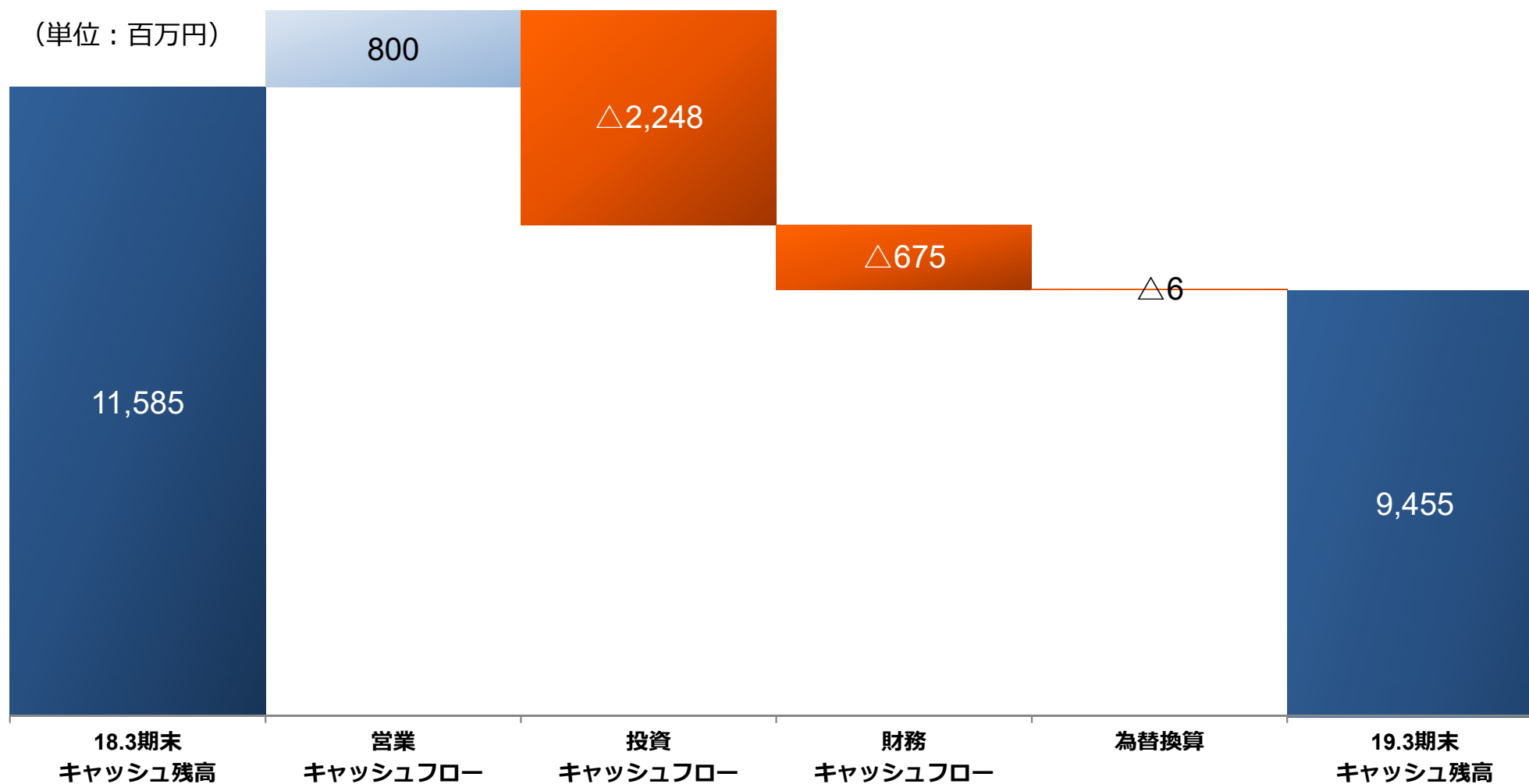
D/Eレシオ



※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

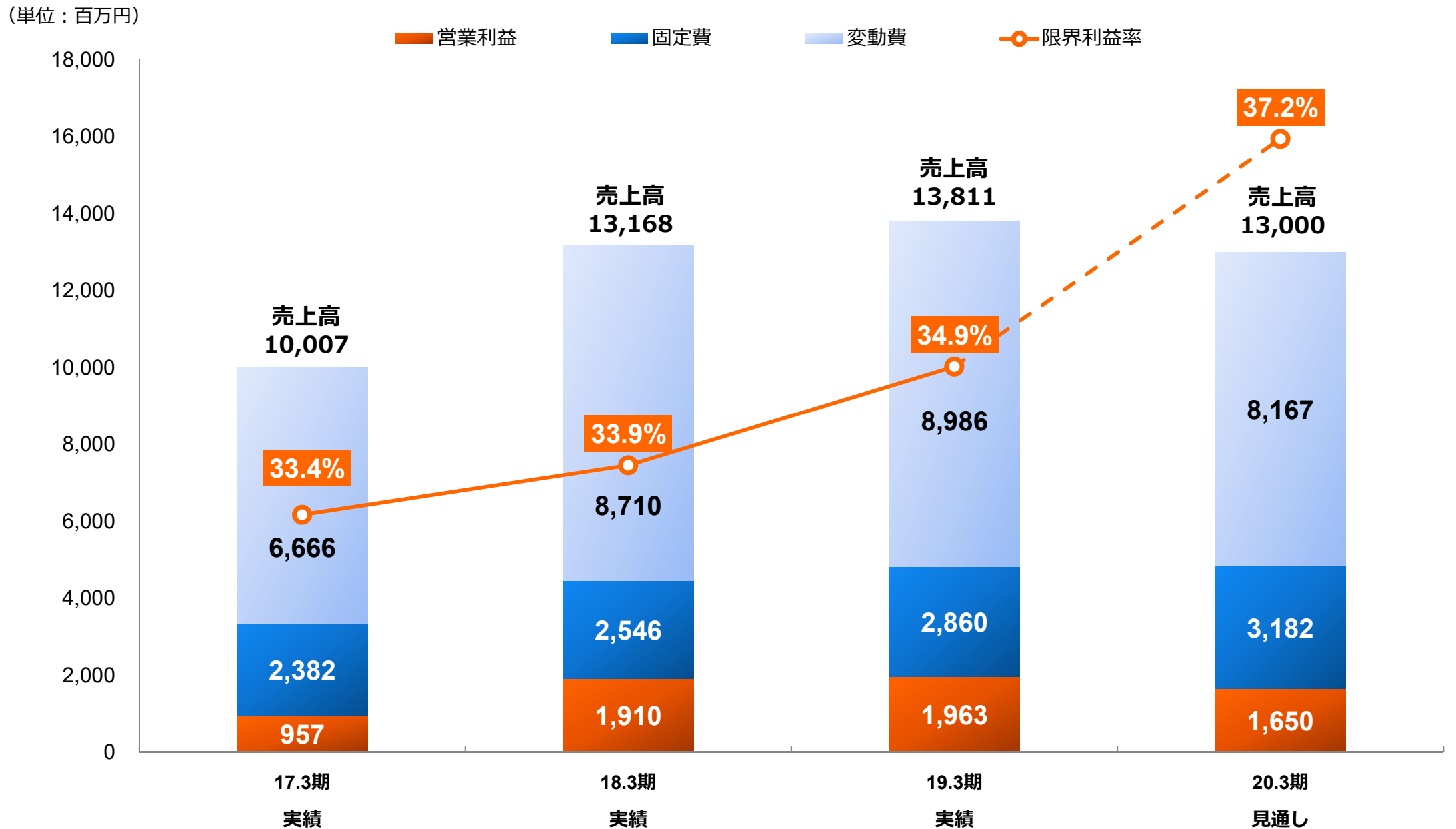
(単位：百万円)	2018/3期 期末	2019/3期 期末	増減額	増減率		2018/3期 期末	2019/3期 期末	増減額	増減率
流動資産	16,977	15,391	△1,586	△9.3%	流動負債	2,969	2,353	△615	△20.7%
現金及び預金	11,619	9,489	△2,129	△18.3%	支払手形及び買掛金	1,517	1,288	△229	△15.1%
受取手形及び 売掛金	3,365	3,252	△113	△3.4%	1年以内返済社債・長借	350	200	△150	△42.9%
商品・製品 & 原材料・貯蔵品	1,799	2,370	571	31.7%	その他	1,101	865	236	△21.4
その他	193	278	85	44.0%	固定負債	797	565	△231	△29.1%
固定資産	3,787	5,641	1,853	48.9%	社債	400	200	△200	△50.0%
有形固定資産	1,653	3,540	1,886	114.1%	退職給付に係る負債	175	190	15	8.7%
無形固定資産	412	346	△65	△16.0%	その他	222	175	△47	△21.2%
投資その他資産	1,721	1,754	33	1.9%	純資産合計	16,999	18,113	1,113	6.6%
資産合計	20,765	21,032	267	1.3%	負債純資産合計	20,765	21,032	267	1.3%

*自己資本比率 81.9% 86.1%



(単位：百万円)

Currency	Incoming			Outgoing			Net	期中平均レート (JPY)	円高ケース (10%)			円安ケース(10%)		
	各通貨	円換算	構成比	各通貨	円換算	構成比			各通貨	期中平均レート ▲10% (JPY)	レート差額	影響額 (QTD)	期中平均レート +10% (JPY)	レート差額
JPY	¥18,000.0	¥18,000.0	72%	¥16,300.0	¥16,300.0	68%	¥1,700.0	-	-	-	-	-	-	-
USD	\$54.7	¥6,067.3	24%	\$52.1	¥5,778.9	24%	\$2.6	¥110.9	¥99.83	¥-11.09	¥-28.84	¥122.01	¥11.09	¥28.84
EUR	€ 6.2	¥796.2	3%	€ 4.5	¥577.9	2%	€ 1.7	¥128.4	¥115.58	¥-12.8	¥-21.83	¥141.26	¥12.84	¥21.83
PHP	PP0.0	¥0.0	0%	PP593.2	¥1,245.7	5%	PP-593.2	¥2.1	¥1.89	¥-0.2	¥124.57	¥2.31	¥0.21	¥-124.57
THB	฿87.20	¥299.1	1%	฿26.10	¥89.5	0%	฿61.10	¥3.4	¥3.09	¥-0.3	¥-20.96	¥3.77	¥0.34	¥20.96
Total	-	¥25,162.6	100%	-	¥23,992.1	100%	-	-	-	-	¥52.94	-	-	¥-52.94



量産化技術を生かし、様々な分野へ 「YAMASHIN Nano Filter」を展開

必要分野には
M&Aの実施を検討

Phase 3
中期的

Phase 1
2019.3期

Phase 2
2020.3期

建材・バイオ分野などへ
展開 (例)



建機・エアフィルタ
農業用資材分野・ア
パレルへの進出

自動車分野への展開



The Specialist in Filtration
YAMASHIN 



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL 045-680-1680

E-mail ir@yamashin-filter.co.jp